

神 徳

本社神明宮は天照大日靈尊奉斎しその由緒によれば天正三年本村開発の際真菰の中に奇妙なる草生え一茎より数本穂出でその形状鈴の舞うが如し 村民農耕の適地として喜び合い伊勢内宮を勧請し開拓の鋤を進めたり

寛永十三年二左衛門なる者新田開発を沢海藩に申請その許可を得てより農産の業盛んとなり豊穰なる田畑の基礎築かれ本社は村民の精神的拠点として崇敬を集めたり 村落創世より幾星霜神明宮社殿の改築は慶安四年元禄十六年天明三年嘉永七年と行われ明治大正昭和の間に於ても小改築がなされ 昭和十一年境内地拡張埋立仕事をなし 昭和三十六年本殿移増改築せるも社殿の腐朽甚だしく氏子一同新社殿の建設を願望し来りしが幸いにして昭和四十七年神明宮所 有二町一反四畝歩の面潟を売却し財源となし昭和四十八年十二月神明会館の建設全四十九年十二月新社殿の造営仕事を完了しその竣工式挙行されし時全村民二百二十有世帯一堂に会し喜びを頌ち合い得たるは神徳の然らしむる所なり

こゝに新社殿竣工十周年を卜し石造鳥居の建立並びに灯笼移築工事を行う運びとなり四百十数年に亘る幾変遷を見守り来りし御神木大銀杏も神意に添い村民の福祉と生業の発展を祈り続け感深きものありと思わる かくてこの十年間における一連工事の成就をせしは神意と遠き祖先の遺徳の賜であり氏子一同誓を新たにし神徳を敬仰しつゝこゝに刻して後世に伝うるものなり

昭和六十年八月 早通神明宮氏子総代々表 橋本禮一郎謹書

石碑裏面

北蒲原郡安田町寺社

施行 (株) 菅井石材店